

# J A 自己改革推進レポートについて

令和 2 年 3 月 2 4 日  
J A 鳥 取 県 中 央 会

## 1. J A 自己改革実践状況

### (1) J A 鳥取いなばの取り組み

#### ① J A 鳥取いなば青壮年部通常総会

J A 鳥取いなば青壮年部は 2 月 27 日、令和元年度通常総会を開いた。県青壮年連盟と連携を図り、地域の青年農業者の意見を広く発信し、引き続き、夢のある元気な鳥取県農業・地域をめざしていくことを申し合わせた。任期満了に伴う役員改選では、委員長に福部支部の森本佳祐氏を選任した。



#### ② 支店行動計画実績発表会

J A 鳥取いなばは 2 月 20 日、2019 年度支店行動計画実績発表会を鳥取市の J A 本店で開いた。J A 役職員をはじめ、J A 女性会会員や青壮年部盟友など約 70 人が参加した。管内の 26 カ所ある支店などが、地域に根ざした支店づくりの取り組み成果を報告し、青谷支店が最優秀賞に選ばれた。同 J A は、組合員・地域の利用者にとって、心のよりどころになれるよう、全役職員が意識を高め、毎年様々な活動を展開していく。



#### ③ ハトムギ生産協議会総会

J A 鳥取いなばハトムギ生産協議会は 2 月 7 日、鳥取市の対翠閣でハトムギ生産協議会総会と研修会を開いた。

総会では収支報告や、今年度の活動計画を確認。研修会では、目標反収 200 kg を目指すために作成したハトムギ栽培暦を説明し、出荷実績やハトムギの作付計画について確認した。

横野会長は「ハトムギの加工原料の需要は高く、取引業者の要望は依然として強い。今年は安定収量を確保させ、魅力あるハトムギ生産の機運を高めよう」と生産振興に力を込めた。



## ④ 第62回家の光全国大会

家の光協会は、福岡市で2月17～18日の2日間、第62回全国家の光大会を開いた。

「家の光」の普及拡大や教育文化活動の取り組みが高く評価され、JA鳥取いなばが「家の光文化賞促進賞」に選ばれた。

また、都道府県代表による記事活用などの体験発表が開かれ、普及・文化活動の部に、JA鳥取いなばの山根賀津雄経済部長が出席し、堂々と発表した。



## (2) JA鳥取中央の取り組み

### ① 琴浦町「安田ふれあい食堂」に農畜産物引換券を贈呈！

JA自己改革「地域貢献活動」の一環として、管内の子ども食堂へ定期的に旬の特産物や、農畜産物引換券を贈呈している。2月7日、琴浦町の安田地区振興協議会が運営する「安田ふれあい食堂」の野間田節雄会長に農畜産物引換券を手渡した。令和元年度は、7つの子ども食堂へメロン・西瓜等の旬の食材の引換券を贈呈。

JA女性会からもお米398kgや雑巾2,688枚などを寄付した。また、北栄町の「ほくほく食堂」には、Aコープ店舗から精肉を年3回提供した。



### ② 県下営農指導事業成果発表会に出場！

2月21日、JAグループ鳥取県下営農指導事業成果発表会が開催され、JA鳥取中央から営農指導員2名が出場した。この大会は、営農指導事業の機能・体制を構築させるため指導員のレベルアップと機能強化を図り、農家所得の向上につなげることを目的としている。

北栄営農センターの前田指導員は、花卉「ストック」の栽培でLED電照を導入し開花調節、草丈伸長を促し、単価の取れる時期の出荷率を上げることで農家の所得向上につなげたことを発表。

琴浦営農センターの後藤指導員は、新たな排水対策指導会の実施等により、生産者の意欲を掻き立て、ブロッコリー栽培面積の維持・拡大を図ったことを発表した。後藤指導員は最優秀賞を受賞し、鳥取県代表として8月に開催される中国地区JA営農指導員交流集会で発表する。



### ③ 女性会「会員スタンプ制度」を新たに導入！

J A鳥取中央女性会では、J A事業を知ってもらいきっかけ作りとして新たに「会員スタンプカード」を発行し、女性会会員の拡大と推進に取り組む。新会員の勧誘、共同購入品の購入や各支部の活動への参加等で1ポイントずつ進呈し、10ポイントたまった場合に共同購入品と交換できる仕組み。この取り組みにより、女性会をはじめとする組合員や地域住民の参加により地域に寄り添った活動を展開していく。



### ④ 学校給食用牛乳を飲んで消費確保につなげる！

新型コロナウイルス感染拡大防止による学校臨時休校の影響で納入できなくなった給食用の牛乳を3月16日から内部会議に提供するなど、牛乳の消費確保の取り組みを始めた。県内の学校給食用牛乳は、全て大山乳業農業協同組合が供給しており、出荷停止となった飲料用が加工原料用に代わることで、酪農家の所得減少にまで懸念が及ぶ。大山乳業農業協同組合とは、第1次産業団体間でスクラム協定を結んでおり、連携強化を図っている。



栗原組合長は「J Aグループの一員として相互扶助の精神で助け合うことが大事。小さな力かもしれないが、消費拡大の一助となるよう応援する」と述べた。J A鳥取中央は、当面の間継続し内部会議時に提供していたお茶を牛乳に切り替える。

## (3) J A鳥取西部の取り組み

### ① スイートコーン栽培講習会を開催

J A鳥取西部は3月9日、新規栽培者向けのスイートコーン栽培講習会を開いた。地元の白ネギ生産者と同市の現役高校生が参加し、栽培管理や育苗のポイントなどへの知識を深めた。



### ② 大相撲阿武松(おうのまつ)部屋に特産品を寄贈

大相撲大阪場所(3月8日初日)を控え5日、J A鳥取西部は大果大阪青果株式会社の青翔寮(大阪市福島区)に宿舎を構える阿武松(おうのまつ)部屋に、J A鳥取西部の特産品を寄贈した。J Aの常務は「無観客での開催が決定したが、より一層力士の白熱した取り組みを期待している」と激励し、受け取った阿武松親方は奮闘を誓った。



#### (4) 「共同購入トラクター」第2弾（JA全農とっとり）

生産者の所得向上を目標に「トラクター共同購入」第2弾として、「中型トラクター（28～35馬力クラス）共同購入」に取り組んでいる。2月末までの事前申込み期間において、県下36件の申込みがあった。令和2年10月からの供給を目指し、生産者が求める機能と中型トラクターの開発をメーカーに要求するとともに、共同購入の結集力を活かして生産者の購入価格の引き下げにつなげる。



#### (5) 第15回JA担い手金融リーダー全国大会への参加（JA鳥取信連）

令和2年1月23日および24日の2日間にわたり、千葉県浦安市舞浜にて「第15回JAバンク担い手金融リーダー全国大会」が開催された。

本大会は各県の担い手金融リーダーが一堂に会し、農業者の多様なニーズに応えるべく参加者間の情報共有・相互研鑽・交流を図ることを目的に開催され、県下JAから2名が参加した。

本大会においては「事業間連携による担い手への対応力強化」が特に注力するテーマに設定され、グループ討議では課題に対しJAとして出来ていること、出来ていないこと、JAとして解決するために必要なこと等を取りまとめ、それぞれのグループから討議結果が発表された。本県の参加者からは「他県の担い手金融リーダーと意見交換できる良い機会となった。今後は農業所得増大および地域活性化に向けた取り組みを提案していきたい。」との意見があった。

#### (6) 令和元年度JA共済満足度調査結果について（JA共済連鳥取）

JA共済では、組合員・利用者の満足・貢献を目指し創られた事業の理念を実現していくため、また、組織で働く職員がやりがいを持ち、満足して事業活動を展開していくため、利用者の喜びの声、満足した姿、つまり利用者満足度を高めることが重要と考え、平成29年より推進・保全面における満足度調査を実施している。

鳥取県の令和元年12月末の調査結果では、総合満足度は55.7%と、全国平均と比較して5.2ポイント低い。総合満足度に対する影響が特に大きい調査は、建物共済利用者満足度、異動手続き満足度（車両入替）、自動車継続手続き満足度である。

建物共済利用者と自動車継続手続きは、全国平均を上回り高い評価を受けているが、異動手続き（車両入替）は、全国平均を大きく下回っている。この調査結果は、毎月JAに報告し、利用者の満足度向上への意識付けと課題に対する改善の取組みにつなげている。

改善の取組みとしては、「利用者からの質問に対し、迅速・正確な対応」を心がけるとともに「手続きに必要な書類の説明」を丁寧にわかりやすく行っていくことなどを優先して、取り組んでいる。

また、事務手続きに関する意見では、ラブレッツ（携帯端末）を活用したペーパーレス・キャッシュレス手続きについて、「手続きがスムーズで早くて、良かった」「たいへん見やすかった」「絵や図があってわかりやすい」などの好意的な意見がある。

今後もJA共済では、組合員・利用者の満足度向上に向け、定期的に調査結果を確認し、CS改善活動を継続していく。